

| | |
|-------------|---|
| Title | 清算貿易制の諸形態 |
| Author(s) | 谷口, 吉彦 |
| Citation | 経済論叢 (1938), 47(1): 18-33 |
| Issue Date | 1938-07-01 |
| URL | http://dx.doi.org/10.14989/131124 |
| Right | |
| Type | Departmental Bulletin Paper |
| Textversion | publisher |

東京帝國大學經濟學會 經濟學叢論

第十四卷 第一號

昭和十三年七月一日發行

論叢

「むすび」の道と統營經濟……………經濟學博士 作田 莊一
清算貿易制の諸形態……………經濟學博士 谷 口 吉彦

時論

戰時の農業政策……………經濟學博士 八木芳之助
消費節約に就いて……………經濟學士 柴 田 敬

研究

ナチス革命の原理と價值の轉換……………經濟學士 中川與之助
生命保険料の一考察……………經濟學士 近 藤 文二
資本の流動化と再投資に就て……………經濟學士 有 井 治
日本莊園の構造……………經濟學士 江 頭 恒治
貿易理論について……………經濟學士 松 井 清

說苑

貨幣の本質と價值……………經濟學士 岡 橋 保
問屋制工業の資本主義的性格……………經濟學士 堀 江 英一

附錄

彙報
外國雜誌論題

(禁轉載)

清算貿易制の諸形態

谷口吉彦

目次

- 一、爲替清算制と商品清算制
二、爲替清算制の諸形態
三、商品清算制の諸形態
四、アスキ取引の諸形態

一 爲替清算制と商品清算制

すでに前論において明らかにされたる如く、¹⁾ 清算貿易制は從來の爲替貿易制に對立して、爲替によらざる清算制度によつて貿易を決済しうる新制度である。從來の爲替制度にも種々の形態を發展せしめてゐると同じく、新たな清算制度にもまた、種々の具體的形態を發生せしめることゝなつた。その理論的な典型的形態については、すでに前論において一つの理論的展開の形をもつて論述した所であるが、²⁾ 本論においては更に具體的な各種の形態につき考察することゝする。たゞこの場合にも單に吾々が抽象的に考へ得らるゝ諸形態を問題にするのではなく、現實の過程において、即ち主として最近のドイツにおいて現實に行はれつゝある諸形態を問題にするものである。

第一に、清算貿易制を區分して、爲替清算制 (Das Devisen-clearing) と商品清算制 (Das Waren-clearing) との二

1) 拙稿、清算貿易制の理論 (本誌前月號) 参照。
2) 拙稿、同上 p. 32-36.

つに大別することが出来る。³⁾ 爲替清算制についてはすでに屢々論述した所であるが、⁴⁾ この名稱は必ずしも適當にその内容を現はすものではない。即ちこれは爲替によつて清算をなす制度ではなく、反對に爲替によらずして清算を行ふ制度であるから、之を爲替清算制といふは適當でない。むしろ無爲替清算制といふべきであるが、それでは他の商品清算制との區別が明らかでないから、之と區別するためには、正しくは協定清算制すなはち二國間の公的協定によつて行はるゝ清算制度と言ふべきであらう。協定清算制はたゞにその内容を正しく示す名辭であるのみならず、爲替清算制の下に包括し得ざる而かも商品清算制とも異なる他の清算制度を包括することが出来る。即ち謂はゆる支拂協定 (Zahlungssabkommen) は普通には清算協定と區別せられるのであるが、併しこれもまた二國間の協定によつて清算を行ふ制度であるから、協定清算制の名の下に包括することが出来る。

之に對して商品清算制は、私的契約によつて成立する點において、まづ第一に前者と區別することが出来る。従つて前者を公的清算制とし、後者を私的清算制として區別することも出来る。⁵⁾ 併しながら兩者の區別は、たゞに公私の別に止まらず、第二に、協定または契約の内容上にも相違がある。即ち前者は中央銀行による輸出入商品の相互の籍上振替を協定するものであるが、後者は商品による商品の清算を契約するものである。これ商品清算制の名稱の來る所である。尤も後に詳論する如く、この制度の最も發展したるアスキ制に至つては、著しく爲替清算制に接近し、商品對商品の清算は、必ずしも直接に行はるゝものではない。従つてこの場合にはたゞ公私の區別を認めうるに過ぎない。第三に、兩者の區別はまたその機能上の相違にも認められる。さきにも述ぶるが如く、清算貿易制の一般的な經濟的機能は、直接には爲替によらざる決濟をなし得る點にあるが、この決濟機能

- 3) Kurt Kroymann, Clearing und Kompensation im Aussenhandel, II. Aufl., 1935, S. 26.
Fritz Huhle, Das Kompensationsgeschäft im Rahmen der deutschen Handelspolitik seit der Wirtschaftskrise (Jahrbücher für Nationalökonomie und Statistik, Bd. 145, Heft 2, Feb. 1937, S. 189.)
- 4) 拙著、貿易統制の研究、第一卷參照

は前者において最も包括的に、全國的に總ての貿易を綜合し、また或程度までは貿易外收支の決済をなし、また時間的にも相當の間隔において決済しうることとなつてゐる。然るに商品清算制の決済機能は、概して制限的・個別的であり、個々の取引毎に別々に決済されるか、然らずとも個人的の所有債權をそのまゝに残存せしむることとなる。この意味においては、論理的にも歴史的にも、前者は却つて後の發展段階に屬するものと言へる。⁵⁾

かくの如く吾々はまづ清算貿易制を大別して爲替清算制または協定清算制と商品清算制との二つとするものであるが、これは必ずしもドイツにおける通説ではない。例へば Kroymann 氏の説は最も之に近く、一般的な包括的概念として、Clearing または Clearingverkehr を考へ、之を分つて爲替清算と商品清算としてゐる。⁶⁾ たゞこの爲替清算は Devisenclearing とせず、Zahlungsclearing と言つてゐる。また Huhle 氏も Warendclearing と Devisenclearing とを對立せしめてゐるが、併し氏においては Clearing の主體は常に國家であるから、私人間の取引契約にすぎない Kompensation は、右の商品清算とは別ものとなり、Clearing と對立してゐる。従つて國家を主體とする公的の商品清算制とは、例へば日印協定におけるが如き交換貿易制を意味することとなる。Ahbe 氏の説は更に異なり、相殺取引 (Kompensation) を最も廣義に包括的に解し、その下に清算協定または支拂協定と公的相殺と私的相殺とを鼎立せしめてゐる。¹¹⁾ 従つて氏の Kompensation は大體において吾々の Clearing に近い概念となつてゐる。最後に Barczewski 氏にあつても、爲替清算と商品清算とを併立せしめるが、併しその商品清算 (Warendclearing) は相殺取引 (Kompensationsgeschäft) を含まず、之と併立して此の三者を鼎立せしめてゐる。¹²⁾

かくの如くドイツ諸學者の見解もそれ／＼に相違してゐる。吾々は必ずしも是等の見解に捉はれず、寧ろ獨自

5) Otto Ahbe, Die Praxis und Mängel des Kompensationsgeschäftes, 1936, S. 18.

6) Kroymann, a. a. O. S. 19.

7) 拙稿、清算貿易制の理論(本誌前月號)照參。

8) 拙稿、同上參照。

9) Kroymann, a. a. O. S. 26.

10) Huhle, a. a. O. S. 189.

の立場より、最初に述べるが如く Clearing-system を廣義に解して清算貿易制となし、之を二大別して爲替清算制または協定清算制と商品清算制となし、その各々をまた更に數種の形態に區分すること左表の如くする。而して以下の本論においては、是等の諸形態につき、それ々の特質を明らかにせんとするものである。

| 清算貿易制 (Clearing-system) | |
|--|--|
| 爲替清算制 (Devisen-clearingsystem) | 清算協定 (Verrechnungsbkommen) |
| | 支拂協定 (Zahlungsabkommen) |
| 商品清算制 (Varen-clearingsystem) | 自由協定 (freie Abkommen) |
| | 公的相殺協約 (Staatliche Kompensationsabmachungen) |
| 私的相殺取引 (Private Kompensationsgeschäft) | |
| 交換取引 (Tauschgeschäft) | |
| 私的清算取引 (Sonstige private Verrechnungsgeschäft) | |
| 相互取引 (Gegenseitigkeitsgeschäft) | |
| 原料信用取引 (Rohstoffkreditgeschäft) | |
| 勞務相殺取引 (Nebenkostenkompensation) | |
| アスキ取引 (Aski-geschäft) | |

二 爲替清算制の諸形態

爲替清算制は前述の如くその名辭とは反對に、爲替によらざる清算制度である。その一般的な機構および機能については、すでに詳論した所であるから、こゝでは主として之に屬する諸形態につき研究することとする。

第一は、清算協定 (Verrechnungsbkommen) に基いて成立せる爲替清算制であつて、これは最も典型的な形態である。清算協定とは二國政府間の公的協定によつて、兩國の貿易決済を爲替によらずして、中央銀行その他の公的機關における簿上振替によつて、決済することを協定せるものである。その直接の機能は、爲替によらずし

11) Ahbe, a. a. O. S. 18.

12) Max Barczewski, Kompensationsgeschäfte im Raemen der Kontingentierungspolitik 1936, S. 59.

1) 拙著、貿易統制の研究(第一卷) 第一篇第十一章參照。

て決済をなしうる點にある。そこで清算協定の諸形態は、先づ第一に、この決済の範圍または協定の内容如何によつて種々に區別される。Einzig 氏はこの點より見て、次の如き十種を擧げてゐる。²⁾ 重要な區別は貿易上の收支に限るか、他の收支をも包含するかにある。

- (一) 特定商品の貿易のみの決済を協定するもの、
- (二) 自國產の商品全部の決済を協定するもの、
- (三) 自國產および植民地產の商品全部の決済を協定するもの、
- (四) 自國(および植民地)に於て生産および完成されたる全商品の決済を協定するもの、
- (五) その他に通過貿易の決済をも包含するもの、
- (六) その他に貿易外收支の決済をも包含するもの、
- (七) 貿易未拂金の支拂をも包含するもの、
- (八) 金融上の利子支拂をも包含するもの、
- (九) 資本償還をも包含するもの、
- (十) 他の種の資本移動をも包含するもの、

Kroymann 氏も同じく協定内容の區別によつて、次の三種に區分してゐる。³⁾

- (一) 瑞典條項 (Die Schwedenklausel) — 從來の貿易は何ら變更されず、たゞ從來以上に増加したる貿易の決済に關して協定するもの、

2) Paul Einzīg, The Exchange Clearing System. 1935, p. 74.

3) Kurt Kroymann, Clearing und Kompensation im Aussenhandel, S. 32-36.

(二) 爲替條項 (Die Valutarisikoklausel)——輸出入契約の成立以後、決済までの間の爲替相場變動の危険を免れしむるもの、即ち契約成立當時の爲替相場をもつて決済するもの、

(三) 強制決済 (Das Zwangsclearing)——すべての輸出入を強制的に、之によつて決済せしむるもの、但し個別的商品交換は除外するのが普通である。

次に清算協定はまた之をその協定國の數によつて、次の如き諸形態に區別することが出来る。⁴⁾

(一) 一方的清算協定 (Unilateral Clearing agreements)——協定國の一方にのみ強制的な清算制度を布き、相手國では全く自由に爲替または清算制度を選択せしむるものであつて、爲替管理國と爲替自由國との清算協定たとへば一九三四年八月獨英間に成立した協定の如きはこれである。⁵⁾

(二) 双方的清算協定 (Bilateral clearing agreements)——大多數の清算協定は之に屬し、最も典型的の形態である。その協定の内容または決済の範圍如何によつて、前述の如く種々の形態を包含しうるが、併し清算協定を成立せしむるに至つた現實の事情は、爲替制限による輸入の困難および輸出の凍結を打開せんとするにあつたから、元來は貿易上の收支を決済する點に重點を置いてゐる。たゞその餘裕ある場合の殘額をもつて、貿易外の收支をも決済しうることもなるものである。⁶⁾

(三) 三角的清算協定 (Triangular clearing agreements)——三國間の國際收支を相互に清算する協定であつて、現實の事實としては、ドイツとギリシアとチェコスロヴァキアとの間に成立したことがあり、⁷⁾日・滿・獨の間にも之を成立せしめんとしたことがある。

4) Einzig, *ibid.*, p. 69.

小泉晋一著、爲替清算協定概論、第六章參照。

5) 小泉晋一著、前掲書 p. 80-86.

拙著、貿易統制の研究第一卷 p. 268.

6) 拙著、前掲書 p. 268-275. 小泉氏著、前掲書 p. 86-95.

7) 小泉氏著、前掲書 p. 95-100.

(四) 多邊的または國際的清算協定 (Multilateral or International clearing agreements)——多數國家間に相互清算の協定成立する場合または國際的な決済銀行において清算の行はるゝ場合これであつて、例へば一九三三年十一月バルカン諸國が聯合して、中央爲替清算局を設けんとしたるが如き、また今日すでに存在する國際決済銀行を國際的な中央清算機關とする案の如きは之に屬する。學者によりては之を環狀清算 (Ringclearing) とも言つてゐる⁸⁾。

第二は、清算協定と對立する支拂協定 (Zahlungsabkommen) の諸形態である。支拂協定もまた同じく國家間の公的協定であるが、併し特別の清算機關または特別勘定を設けることなく、たゞ債務國がその輸入の支拂方法を保證したものである。例へば一九三四年十一月締結の英獨支拂協定においては、獨逸の對英輸出の五五%は、英國の對獨輸出の支拂に充當し、殘餘の四五%のうち一〇%は、凍結貿易債務のために留保し、殘餘のうちよりドーズおよびヤング公債の利子支拂をなすべきことを協定してゐる⁹⁾。前述の如く爲替管理國と爲替自由國との間では、爲替清算協定は十分にその機能を發揮しえないことが多いから、この缺陷を補ふために、輸入爲替を制限する爲替管理國をして、他の方法による支拂を保證せしむるのである。支拂協定 (Payment agreements) を廣義に解する場合には、これと Transfer agreements または financial agreements とを同義に解し、従つてその中に債務協定 (Debt agreements) および爲替協定 (Exchange agreements) をも包含せしむることとなるが、併し吾々は寧ろ之を狹義に解して、種々の形態に於ける Transfer agreements の一形態とするものである¹⁰⁾。

第三は、自由協定 (Freie Abkommen) または自由爲替協定 (Exchange agreements) の形態であつて、その形式

8) Huhle, Das Clearingwesen im Aussenhandel vom deutschen Standpunkt aus (Jahrbüchdr für Nationalökonomie und Statistik Bd., 146, Heft 2, 1937, S. 177.)

9) Einzig, *ibid.*, p. 182-183. 小泉氏、前掲書 p. 199.

10) Einzig, *ibid.*, p. 178-183.

においては最初に述べたる清算協定と同じではあるが、たゞその國民に向つては之を強制せず、この清算方法と爲替方法との間に、自由選擇の餘地を認める。従つてこの協定は、自由爲替制度と併存することゝなる。いな自由爲替制から爲替清算制に至る場合の過渡的または中間的の形態である。これは理論的に然るのみならず、現實の事實においてもまた、多くの爲替協定は清算協定にまで發展してゐる。爲替協定の最も發展したのは、一九三三年および三四四年であるが、それは主としてドイツにおける輸入爲替の割當が著しく制限的となり、輸入の困難を加ふることゝなつた爲めに、之を打開する方策として、主としてドイツ側のイニシアティブによつて、イギリス・オランダ・スウェーデンその他の諸國との間に成立したものである。そのうちイギリスを除いて、他のすべては後に至つて爲替清算協定に移行してゐる。¹¹⁾

自由爲替協定は爲替清算協定の如く國民を強制するものではないから、吾國またはその多くの相手國の如く、爲替管理の徹底してゐない場合にも、直ちに之が實行は可能であり、國民は寧ろ自己の利益のために、爲替よりも此の方法を選択するに至るものである。ことに吾國の現状において、輸出獎勵策としての爲替協定の機能を検討することは、極めて重要である。假りに吾國がその入超國たるA國との間に、自由爲替協定を結んだとすれば、吾國の原料輸入商人は、その輸入代金を國內銀行の中に設けられるA國の特別勘定に拂込んで、その輸入を決済することが出来る。これは資金の對外支拂(Transfer)とはならず、わが國內に留保されて、A國への輸出代金として吾國の輸出商人に拂出される。そこでA國は吾國の入超先であるから、この吾國に保有するA國の特別勘定は、次第に累積する筈である。然る時はA國はその國の輸入商人に向つて、右の吾國に保有する圓資金を割引し

11) Einzig, *ibid.*, p. 179.

て賣出し、輸入商人は之を安價に買取つて吾國からの輸入を決済することとなるから、この輸入は極めて有利となり、従つて吾國からの輸出を促進して、輸出入は次第に均衡に近づく傾向を示すこととなる。この協定は國と國との公的協定を原則とするが、併し必ずしもそれに限らず、私的の爲替銀行相互間の契約によつても成立しうる。たゞ必要なことは、輸出入商人相互間に、かゝる相互清算をなすべき契約の成立するを要する。これは輸入兼營の商人ならば、相互に一人づゝの商人をもつて足るが、理論的には少くとも四人を必要とする。何れにせよ、この種の新制度を成立せしむるためには、官廳側の積極的斡旋を必要すると共に、民間側の積極的努力を必要とすることと言ふまでもない。

三 商品清算制の諸形態

商品清算制は前にも述ぶるが如く、第一に商品による商品の清算であり、第二に私的契約による清算を主とし、第三に個別的・制限的の清算である。即ち商品清算制は、私的契約を原則とするものであるが、併し特殊なものとしては、公的な相殺協約も行はれたことがある。

公的相殺協約 (Staatliche Kompensationsabmachungen) の特質は、永續的な一般的な協定とは異り、特定の商品または商品群を指定し、かつ特定の金額を限つて協約し、その金額の限度をもつて解消するのを原則とする。たゞし特別の事情ある場合には、その條件を更新して繼續することはあり得る。¹⁾

この種の協約に屬するものとして、ドイツと南アフリカ聯邦との羊毛協約 (Das erweiterte Wollabkommen) を

1) Otto Ahbe, Die Praxis und Mängel des Kompensationsgeschäftes, 1936, S. 20.

擧げることが出来る。之によれば協約額四百萬磅のうち、二百萬磅を羊毛、他の二百萬磅を鑽石・皮・毛皮・南洋果實等にてドイツに輸入し、之に對してドイツの諸商品を輸出する。ドイツの輸入業者はその輸入代金をマルクにてドイツ國內の指定銀行に拂込み、輸出業者は南阿輸入業者より送附し來れる爲替をライヒス・バンクに提供する。ライヒス・バンクは之をもつて右の指定銀行のマルク債權を清算する。若しもドイツの輸出が不足する場合には、南阿聯邦政府はその協約額まで政府註文を發することによつて、均衡を齎らしうることとなつてゐる。²⁾その他にもドイツ・パレスチナ間に成立したハーヴァラ協定 (Haavara-abkommen) 同様にオレンヂ協定 (Orange-abkommen) の如きも、公的相殺協約に屬するものである。³⁾

次に私的相殺取引 (Private Kompensationsgeschäft) の一般的な特質は、何れの點にあるか、さきにも述ぶるが如く、一般に相殺取引 (Kompensationsgeschäft) は、『商品または勞務に對する商品または勞務の交換である』⁴⁾と言ひうるとすれば、その私的に行はるゝものが即ち茲での問題である。Ahbe 氏は之を定義して、『一人もしくは多數のドイツ輸出業者および輸入業者が、一人もしくは多數の外國輸出業者および輸入業者と、その商品供給ならびに勞務提供を清算する場合に、私的相殺取引が生ずる』⁵⁾といふ。こゝでは主として氏に従つて、私的相殺取引に屬する諸形態の特質を問題とする。

(一) 私的清算取引 (Das private Verrechnungsgeschäft) これは、ドイツとの間に何ら公的の清算協定または支拂協定を結ばざる爲替自由國との間に行はるゝものであつて、之を更に二つに區別する。

(1) 交換取引 (Tauschgeschäft) とは『一ドイツ商會と一外國商會とが、相互に商品を提供しまたは勞務を提供

2) Ahbe, a. a. O. S. 21-22.
3) Ahbe, a. a. O. S. 22-23.
4) Ahbe, a. a. O. S. 10, 24.
5) Ahbe, a. a. O. S. 24.

しあひ、そこから生ずる請求を相互に清算する取引⁵⁾であつて、双方ともに輸出商人が同時に輸入商人であり債権者が同時に債務者であるから、相對する二人の間に、相互の債権・債務を相殺するものである。

(2) その他の私的清算取引 (Sonsige private Verrechnungsgeschäfte) といはるゝのは、『一國または兩國において、輸入業者と輸出業者、または勞務提供の債権者と債務者とが、別個の人々である場合、從つて三人またはそれ以上の商會が清算に参加する場合⁶⁾』である。即ち典型的にはドイツにおける輸入業者と輸出業者の二人、外國における輸出業者と輸入業者の二人があつて、四人の間の契約によつて相互の債権債務を相殺するものである。この場合に何ら清算機關の仲介を経ずして、直接に清算せらるゝものである。

(二) 相互取引 (Das Gegenseitigkeitsgeschäft) これはドイツとの間に公的の清算協定または支拂協定を結んでゐる諸國との間に行はれ『その支拂が、各取引毎に別個に、清算協定または支拂協定に則つて行はれるところの商品輸入取引および輸出取引⁸⁾』である。清算協定國からの輸入の許可を得る場合に、之に相應する輸出の證明あらば、容易に輸入を許可されるであらうと信ずる所から、私的のかゝる取引の成立を見るものである。たゞし法律上では、かゝる取引の成立を輸入許可の條件とすることはない。この取引の特質は、その支拂が私的の相殺または清算によることなく、すべて公的の清算協定または支拂協定を通して清算される點にあり、從つてすべての取引は、協定價額の範圍内において、その一部として行はれることとなる。然るに時としては、之による取引を右の協定價額の範圍外とし、それだけの追加取引として認められる場合もある。例へばドイツとイタリー・チエツコスロバキヤ・オランダとの各協定には、この種の相殺取引が豫想されてゐた。かゝる場合には、特に之を『追

6) Ahbe, a. a. O. S. 38.
7) Ahbe, a. a. O. S. 38.
8) Ahbe, a. a. O. S. 39.

加的相互取引』(Das zusätzliche Gegenseitigkeitsgeschäft) と呼ばれてゐる。⁹⁾

(三) 原料信用取引 (Das Rohstoffkreditgeschäft)

輸出品の原料輸入が爲替制限のために困難となつた場合に、一時的の信用によつて原料輸入をなし、後にその原料による製品を輸出したる場合に、その手取金をもつて前の信用を填補する方法これであつて、官廳定義に従へば、『原料信用取引とは、原料輸入による後刻支拂の信用債務を、所轄爲替官廳の義務的許可に基づいて、この原料により製造された製品の輸出手取金をもつて支拂はれる取引を言ふ』¹⁰⁾例へばドイツ輸出業者が綿製品の注文を受け、之を製造業者に注文したる場合に、その生産に必要な棉花輸入の爲替許可さへ得られるならば、之に應じうるものとする。然るにライヒス・バンクは前以つて、かゝる輸入爲替を許可しないから、そこで彼れは他の方面からそれに相當する外國貨幣による信用を獲得せねばならぬ。この信用は銀行クレジットまたは商品クレジットの形態をもつて與へられ、之に對する償還は、右の綿製品の輸出手取金をもつて充てられる。そのためには此の輸出によつて外國爲替を獲得せねばならず、従つてこの輸出は爲替清算に關する非協定國に向つて行はれねばならぬ。¹¹⁾併しながらこの輸出は、必ずしも原料輸入國に向つて輸出さるゝことを要せず、第三國に輸出されても差支はない。この點では從來の三角取引 (Dreiecksgeschäft) の殘餘形態であるとも言はれる。¹²⁾

(四) 商品による附帶費用の相殺 (Die Kompensation von Nebenkosten mit Waren)

私的相殺取引はたゞに商品對商品の相殺に止まらず、商品貿易に伴つて生ずる附帶費用すなはち船舶運賃その他の勞務提供ならびに手数料に對しても、商品輸入をもつて相殺することが出来る。この附帶費用は、ドイツの

9) Ahbe, a. a. O. S. 40.
10) Ahbe, a. a. O. S. 42.
11) Ahbe, a. a. O. S. 43-44.
12) Ahbe, a. a. O. S. 43.

勞務によつて生じ、外國業者が普通の爲替をもつてドイツに支拂ふべきものであるが、之を商品輸入をもつて相殺するものである。この相殺もまた、公的の清算協定の存しない場合に行はるゝものであつて、若しも清算協定の成立してゐる場合には、附帶費用もまたその中に含まれるのが一般である。¹³⁾たゞ茲に問題となる形態は、附帶費用を商品をもつて相殺する場合であつて、一般的に附帶費用を如何にして決濟するかは自ら別問題である。¹⁴⁾

四 アスキ取引の諸形態

私的相殺取引のうち最後に發展した形態は、アスキ取引 (Aski-Geschäft = Ausländer-Sonder-Konten für Inlandzahlungen) である。即ち從來の私的清算取引に伴ふ種々の不便を除去し、改善を加へたるものである。例へば從來の相殺取引にありては、輸出入貿易を兼營せざる限り、少くとも内外四人の組合せを必要とするが、この相手方を都合よく發見することは容易でない。また相殺は個々の取引毎に個別に行はれるから、この點からも甚だしく不便である。¹⁾

アスキ取引は主として右の二點に對し或程度の緩和を試みたものであり、従つてアスキ相殺の特質も主として右の點にある。即ち第一に、アスキ取引にあつては、ドイツ輸入商人と外國輸出商人との間に、民間の爲替銀行を介在せしめ、輸入商品の代金を外國輸出商人の特別勘定として此の銀行に留保せしめる。この銀行の介在による清算のために、商人相互の直接相殺に比し、著しく便利となり信用を高め確實となるから、取引は容易となつて貿易は促進される。²⁾第二に、アスキ取引にあつては、個々の取引を個別的に相殺する代りに、個人的ではある

12) Ahbe, a. a. O. S. 47.

14) Ahbe, a. a. O. S. 65.

1) Ahbe, a. a. O. S. 65.

2) Arno Seeger, Das „Aski“-Geschäft, Entwicklung und Möglichkeiten (Die Bank, 21, Okt., 1936, S. 1577)

が、包括的綜合的に相殺される。即ちドイツへの輸出商人はその手取金をアスキ・マルクとしてドイツ爲替銀行に預金しおき、その中より輸入商品の代金を支拂ひ行くことが出来る。また若し自ら輸入をなさざる場合には、他のドイツからの輸入商人に對して、右のアスキ・マルクを譲渡することも出来る。この場合アスキ・マルクの豊富なるときは、之を割引して譲渡することとなり、マルクの減價現象を生ずることがある。それだけドイツからの輸入は有利となり、従つてドイツの輸出振興を見ることとなる。これらの點において、アスキ取引は商品清算よりも寧ろ爲替清算協定に近い³⁾。たゞ公的協定にあらずして、どこまでも私的の取引制度である點において異るに過ぎない。アスキ取引については、すでに他の機會に詳論しておいたから、こゝではたゞ右の私的相殺取引としての特質を明らかにすると共に、之に屬する諸形態の特質を論述するに止める。

(一) 商社アスキ (Firmen-Aski)

外國商社にしてドイツに商品を輸出したるものが、その手取金をアスキ・マルクとしてドイツ國內の銀行に保有する場合は、商社アスキであつて、外國商社の所有するアスキの意味である。このアスキは永續的にその商社の個人的所有に屬するものであるから、彼自らドイツ商品を輸入して、その代金支拂に充當せねばならぬ。即ち商社アスキの相殺は全く個人的である。こゝに商社アスキが缺陷があつて、これが廣く行はるゝに至らない理由もこの點にある。即ち第一に、その外國輸出業者は同時にドイツ商品の輸入業者でなければならぬ⁴⁾。第二に、その清算は特定の商社間のみ限られ、特別勘定は個人的に所有せられるからである。これらの缺陷は次の銀行アスキによつて克服されてゐる。

3) Seeger, a. a. O. S. 1579.

4) 拙稿、輸入統制としての「アスキ」制度(本誌第四十五卷第二號)。

5) Albe, a. a. O. S. 66.

(二) 銀行アスキ (Banken-Aski)

これは外國銀行がドイツの銀行に保有するアスキである。即ちドイツへの輸出債權を外國銀行が買取るときは、ドイツ輸入商人の拂込みたる代金は、外國銀行の所有となつてドイツ銀行内に保有されることとなる。⁶⁾之によつて從來の私的相殺取引または商社アスキにおける個人的相殺は消滅し、綜合的包括的な相殺機關を提供し、一般的な清算市場を創設したわけである。即ちその外國銀行はドイツに保有するアスキ・マルクを賣出し、ドイツ商品の輸入業者は、その地の銀行から之を買取ることによつて、何人にもドイツ國內の支拂に充當することが出来る。アスキ・マルクの自由な賣買市場が、諸外國に成立するわけである。従つて商社アスキに比して極めて便利であり、アスキ取引の典型的な形態として、廣く盛行するに至つたのは銀行アスキである。⁷⁾

(三) 通過アスキ (Transit-Aski)

これは後に至つて追加せられたアスキであつて、通過貿易または仲繼貿易に關するものである。これによつて外國仲繼商の手を経て清算協定國に輸出されるドイツ商品または外國仲繼商の手を経て輸入される第三國の商品に對しても、アスキ清算を認めらるゝこととなり、ドイツを中心とする可なりに一般的な清算制度となることが出来る。これをまたBアスキとも言ふ。⁸⁾

(四) 必需品アスキと不必需品アスキ

これはアスキの形式上の區別ではないが、アスキ取引によつて輸入さるゝ商品の區別に従つて、右の二種に分類し、必需品に對しては一對一すなはち輸出と同額の輸入を許すに反し、然らざる商品に對しては一對三すなは

6) Ahbe, a. a. O. S. 66.

7) Ahbe, a. a. O. S. 66.

8) Ahbe, a. a. O. S. 72.

ち輸出の三分の一に相當する輸入にあらざれば許されないことゝなつた。

アスキ取引はその餘りに自由な發展の爲に、一九三七年五月以來、更らに統制強化の必要から廢止された様であるが、併し現實の必要から生れた新貿易方法として、十分の研究に値する歴史上の事實である。アスキ取引に限らず、一般にこゝに問題とした清算貿易制の諸形態は、ドイツの現實の必要に迫られて、發明考案せられた新制度である。而してそのドイツの現實の必要は、大體において今日の吾國にも現實に存在する需要である。即ち對外支拂の困難・爲替相場の維持・原料輸入の困難・輸出振興の必要等々、吾國今日の戰時體制において、最も緊急の對策を必要とする問題である。それ故に同じ事情にあるドイツにおいて、すでに盛んに行はれ、また現に行はれつゝ新制度を検討することは、極めて示唆的な何ものかを與へる筈である。